

# 平成27年度 教育活動等に対する学校評価書

(自己評価及び学校関係者評価結果書)

学校法人くるみ学園 掛川中央幼保園幼稚園部

## 1 幼稚園の教育目標

明るい子…だれとでも楽しく遊べる  
がんばる子…じょうぶで、ねばり強い子  
かんがえる子…自分から創りだしていく子

## 2 本年度の重点目標

保育園と合体した一つの園である幼保園として、保育園部との融合を模索しつつ、幼保園独自のカリキュラムを構築していく。それら内容を保護者へ正確に説明対応することを心掛ける。子どもたち一人ひとりの発達状況を見極め、集団の中での丁寧な対応を行う。

## 3 教職員による、評価項目に対する自己評価(平成28年2月中実施)

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
1 保育の計画性	年間計画・月案・週案・日案に沿って計画を立てて保育を実践することが出来たと思われる。保育諸活動や行事に関しても、一つひとつを丁寧に考えて計画し、実践出来た。	A
2 保育の在り方、 幼児への対応	個々の園児に対する基本的な動作や言葉掛けを注意して行った。個々の子どもたちの保育記録等などを実践。ただ、集団の中での一人ひとりの発達状況を見極めた保育が、同じ年齢でも状況が全く違うのでなかなか難しかった。支援が必要な子どもにも、出来得る限りの対応を行った。	A
3 教師としての資質、 能力・良識・適正	子どもに接する上では保育者自身の人間性が大切であるという認識の元、自身の経験を豊かにすることを意識した。職員会議をなるべく多く持って園の教育方針を全員が理解するよう努めたが、まだ完全に浸透していない。	B
4 保護者への対応	子どもの園での様子は、連絡帳等を使用して家庭とのつながりをなるべく取るように心掛けた。開園して間が無い為、保護者と信頼関係を築くのが非常に難しく、思わぬ誤解を招くことあったが、教育方針を理解してもらうように再三務めた。	B
5 地域の自然や社会 とのかかわり	公園まで歩いて園外保育に出かけ、時には園バスを使って遠くの緑豊かな公園まで赴き、虫取り・木の実拾いなどの自然の中で遊ぶ計画を立てて実行できた。 地域とのかかわりは、ご近所のお年寄りと関わりを積極的に持った。	A
6 研修と研究	成長に問題のある子については、子どもの様子を発表・話し合いを行って情報を共有、保育者全員で問題意識を持って関わりを深めていけるようにした。	A

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった

#### 4 次年度以降に取り組む課題

教師一人ひとりが、子どもの状態をよく観察してきめ細かい保育を行う。その為に各人の保育技術の向上。保護者へ教育方針の理解を求めることをさらに継続して行っていく。  
園内設備や保育用具など、足りないものを徐々に増やしていく。

#### 5 教職員自己評価に対する学校関係者評価

評価者：掛川中央幼保園幼稚園部 学校関係者評価委員会		
評価日：平成28年 3月 8日		
評価項目	学校関係者評価委員意見	評価結果
1 保育の計画性	徐々にではあるが、教員各々が法人と園の教育方針を良く理解し、年・月・日のカリキュラムをしっかりと立てて保育を行っていた。まだ浸透しきれていない部分も見られるようだが、これは時間の問題。職員会議等をなるべく毎日行う努力をしており、行事の前後には必ず会議や反省会を綿密に行っていて、計画内容がかなりよく実践されていた。	A
2 保育の在り方、 幼児への対応	保育における「ねらい」を単純明確にしているため、教員間の連携は取れていたように見られる。どうしても保育園部に引っ張られてしまう形で、特色ある思いきった保育をすることへの制限が出来てしまうのが非常に残念。それでも、その中で何とか良い方向性を見出していこうとする数々の努力は見られたと思われる。	A
3 教師としての資質、 能力・良識・適正	常に物事を吸収して保育に生かしていこうという姿勢が教員たちに見られた。ベテラン教員を中心に、若手とのバランスをうまく取って、研修などを随所に行い、新人教員が育っていく環境が整いつつある。次年度以降にも期待が出来る。	B
4 保護者への対応	保護者と連絡を密に取ることで、子どもの状態を把握していこうとする姿勢は随所に見られたが、開園してまだ間が無いためなのか、保護者との信頼関係を構築するには十分な時間が無かったように見られる。思わぬ誤解やクレームがあったのも残念。今後、徐々に出来ていこう。	B
5 地域の自然や社会 とのかわり	園の周辺にはまだ自然が残っているので、昆虫や小動物との関りは持っている。さつま芋の苗付けと収穫は大変良い活動であろう。 地元老人会との触れ合いの機会を何回か持ち、昨年度よりも連携が出来ていたと感じた。	A
6 研修と研究	テーマを決めて研究を深め、自身の保育の能力を上げようとする努力は見受けられる。今後も継続して欲しい。	A

※学校関係者評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…まずまず達成された

C…取り組みは見られるが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった